

学校図書館グループ研究会

グループ員：小木曾 笑子 (伊丹小学校) 大石 愛弓 (伊丹小学校)
小寺 真美子 (稲野小学校) 太田 裕子 (緑丘小学校)
難波 麻美 (天神川小学校) 林 美幸 (笹原小学校)
高峰 良子 (有岡小学校) 上野 晴子 (摂陽小学校)
坪木 麻侑子 (鈴原小学校) 大石 田鶴子 (伊丹特別支援学校)
担当指導主事：藤本 裕子

キーワード：学校図書館 自己学習力 選ぶ 読書活動

1 研究テーマ

「自ら本を手にする子どもを育てるために」

2 研究内容

進んで本を読む子どもを育てるために、研修内容を「教科書に掲載されている本」と「子どもと本をつなぐ授業づくり」に分けて研究を行った。

(1) 教科書に掲載されている本

教科書改訂により各学年の国語科教科書に紹介されている本が変わった。そこで、本年度は、光村図書の「この本、読もう」に紹介されている本を分担して読むことで、各学年の子どもたちに紹介すべき本について学んだ。子どもたちに読み聞かせた反応を交流し合ったり、自分が読んだ感想を紹介し合ったりして、自分のクラスの子どもたちに合う本を探した。1年生に紹介されている本は、絵の中から昔話を見つける仕組みになっていて、子どもたちが昔話に興味をもつように工夫されていた。5年生は、初版から長い年月が過ぎているものが多かった。学校図書館の蔵書における新旧の本等のバランスについて、再度考えさせられた。

(2) 子どもと本をつなぐ授業づくり

4年生の授業「テーマにそって本を読み、グループブックトークに挑戦しよう」（「テーマを決めて、本をしょうかいしよう」教育出版4年下）で取り上げるモデルブックトークについてアイデアを出し合った。本単元では、「読書の幅を広げる」というねらいがあることから、様々なジャンル、グレードの本が紹介された。学校司書から「不思議」をテーマに『ペンギンの不思議』『ふしぎな木の実の料理法』『星の王子様』『ヒガンバナのひみつ』他を紹介するブックトークを聞き、ブックトークに対するイメージを膨らませた。実際の授業では、「きつねのおきゃくさま」（教育出版2年上）と前単元で学習した「ごんぎつね」を読み比べ、共通点と相違点から本と本をつなぐ手がかりをみつけることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 今年度から使用している光村図書の教科書に紹介されている本を知り、学校図書館の蔵書計画を考えることができた。
- ② 「この本、読もう」で紹介されている本をどのように授業で活用するか交流することができた。



付せん紙に書かれた理由を交流して、選書する子どもたち

(2) 課題

- ① 各教科等で紹介されている本を参考に、学校図書館の蔵書の充実を図る必要がある。
- ② 各校の特色を生かした学校図書館づくりについて具体化する必要がある。